

第61回日本学連総会 資料

開催日時：2014年(平成26年)10月11日(土) 16時06分～18時46分

開催会場：トリムパークかなづ多目的体育館内会議室(福井県あわら市)

【資料一覧】(敬称略)

	資料タイトル	関連議題 (番号)	備考
資料1	2013年度日本学連会計決算報告	2	作成者:山田陽子 (2013年度日本学連会計)
資料2	2011年度、2012年度の会計について	2	作成者:山田陽子 (2013年度日本学連会計)
資料3	2014年度日本学連会計中間報告(2014/10/11)	2	作成者:大久保宗典(日本学連会計)
資料4	インカレリレー特例措置について	3	作成者:宇井賢(幹事長)
資料5	日本学生オリエンテーリング選手権大会ミドルディスタンス競技部門 関西地区代表選手選考会推薦規約案	4	担当者:糸井川壮大(関西)
資料6	加盟員の登録年数について	5	作成者:佐藤大樹(副幹事長)
資料7	技術委員会報告	7	作成者:大西康平(技術委員長)

2013年度日本学連会計決算報告

収入項目

加盟金		予算
個人	3,378,100	2,700,000
加盟校	144,000	120,000
準加盟校	14,000	15,000
賛助金		
賛助金	114,000	200,000
販売収入		
地図売上(YMOE)	2,575,800	1,300,000
事業収入		1,500,000
ICM&R2012黒字返金	2,363,260	
ファミテック寄付	75,100	
前年度関係		
関東学連加盟費	1,271,000	
その他		
利息	906	
雑収入	283,800	

計 10,219,966

2013年度日本学連会計 山田陽子

2014/10/11

支出項目

貸付金		予算
ICM&R2013貸付金	1,500,000	1,500,000
部局活動費		
広報部	5,980	5,000
事業部	100,000	150,000
事務局	48,450	50,000
普及部	0	20,000
渉外部	69,480	200,000
理事会	95,000	100,000
幹事会役員活動費		
幹事会交通費	776,500	500,000
幹事会宿泊費	357,690	300,000
事務局維持費		
家賃	715,000	715,000
光熱費	37,035	100,000
電話代	50,616	
前年度関係		
事務局返金	19,930	
その他		
地区学連へのフィードバック	32,000	20,000
資料印刷費	4,810	
印刷費(活動報告費積)	250,000	250,000
ユニバー補助積立	100,000	100,000
手数料	5,570	
地図作成(YMOE)	3,400,000	
インカレ実行委員会印	5,200	
インカレ広告費	20,000	
使途不明金	37,860	

計 7,631,121

2011年度、2012年度の会計について

2013年度会計 山田陽子

1、概要

- ・2011年度、2012年度に会計の決算が作成されていなかった。
- ・支出を帳簿に記帳していなかった。
- ・その後、音信不通になった。
- ・結果、400万円近い使途不明金が出ている。

2、使途不明金の金額

- ・通帳の明細を発行してもらい、二年間分のお金の使途を調べた。
- ・銀行口座から直接振込されたものは、名義から使途が推測できる。
- ・通帳から、ATMで現金で引き出された金額を合計した。
その金額は二年間で合計して650万円。
- ・現金で引き出されたお金の使い道として考えられるのは、幹事会交通費、宿泊費など。
- ・その金額は、二年間で多く見積もっても250万円だと考えられるので、引き出された金額およそ400万円は何に使われたのかが分からない。

3. 今後について

- ・2013年度から、交通費は指定されたフォーマットに記入されたもののみ、返金するようにし、保管した領収書には会計監査のチェックを入れた。(小柳さんの時に話されていなかった。)
- ・小柳さんとは連絡が取れない状態が続いているが、斎藤理事から実家に電話をする。それでも出てこない場合は、法的手段に訴えることも考える。

単位: ¥		
収入項目	金額	予算
加盟金		
個人(単価2000円)(※1)	2,421,800	2,000,000
加盟校(単価4000円)	128,000	144,000
準加盟校(単価1000円)	19,000	8,000
賛助金		
2014年度賛助金	87,000	200,000
事業収入		
2013年度ICM&R貸付金	1,500,000	1,500,000
2013年度ICM&R黒字返金	898,644	100,000
その他		
利息	641	
小計	5,055,085	5,207,000

※1. 単価2000円だが、追加登録の人については、追加登録費200円がかかっているため(上級生のみ)、2000円の倍数にはなっていない

※2. 今年度春インカレの貸付金については、申請を受け付けたものの、まだ交付していない(インカレロング後に交付予定)

※3. ユニバー補助に関しては昨年度予算で10万円、今年度予算で20万円を計上し、そこから計30万円を支出

※4. 活動報告書作成費としては毎年25万円を予算として計上。2年ごとに50万円を交付している

※5. ここでは第1回幹事会の会場使用料

※6. YMOEとの清算に関しては、別添資料参照

単位: ¥		
支出項目	金額	予算
インカレ貸付金(※2)		
2014年度ICM&R貸付金(予定)	1,500,000	1,500,000
部局活動費		
広報部	0	5,000
事業部	0	150,000
事務局	33,191	50,000
普及部	0	15,000
理事会	54,400	100,000
渉外部	27,726	100,000
技術委員会関係		
技術委員会	41,925	60,000
インカレアドバイザー派遣	0	160,000
学連合宿補助(3万円×4)	0	120,000
講習会補助(1万円×3)	0	30,000
ユニバー補助(※3) オフィシャル補助など	300,000	200,000
幹事会関係		
印刷費	501,686	250,000
幹事役員活動費	351,504	550,000
	290,200	300,000
	0	50,000
	7,660	50,000
事務局維持費		
事務局維持費	0	715000(1か月)
	14,392	100,000
	25,793	0
その他支出		
JOA加盟金	500,000	500,000
	100,000	100,000
地区学連への賛助金フィードバック	20,000	
YMOEとの清算(※6)	448,400	
手数料	2,160	
小計	2,719,037	5,207,000 (予備費10200)

2014年度第61回総会資料

インカレリレー特例措置について

文責：幹事長 宇井 賢

○特例措置とは？

「特例措置」とは、選手の数が3名に満たない大学に対し、他の大学との混成で選手権リレーへの出場を認める対応のことです。昨年度のインカレミドル・リレーの要項2から該当部分を抜粋します。

*特例措置について

- ・チームとしてリレー競技選手権の部に参加しない加盟校等で特例チームを結成し、リレー競技選手権の部に参加することができる。
- ・構成する加盟校等は複数の地区学連にまたがってもよい。
- ・特例チームは順位に含めないが、上位6チーム以内相当の成績であった場合には特別表彰を行う。
- ・チームの幹旋は実行委員会では行わないので注意すること。
- ・大学を代表して走るリレー競技の趣旨に則り、同一大学内でのエントリーが2名の場合、原則として2名とも同じチームとして特例チームを結成するものとする。
- ・特例措置を希望する場合は、出走者が決まった時点でメールでエントリー担当に問い合わせること。

○昨年度

『エントリー数3人未満(加盟員数に拠らない)の大学のみ、特例措置として他大学との混成チームでの選手権リレーへの参加を認めてほしい。』としてインカレ実行委員会に要望しました。

○今回決めること

この措置は特例ではありますが、近年は(準)加盟校の実情を考慮して毎年とられている措置です。今年も必要であればインカレ実行委員会に要望しようと考えております。このことについて、意見を募りたいと思います。

日本学生オリエンテーリング選手権大会ミドルディスタンス競技部門
 関西地区代表選手選考会推薦規約案

以下の基準と優先度に基づいて選ぶ。

ただし、同じ優先度の基準を満たす者が複数人いた場合は、その大会の順位が最も高かった者を選ぶこととする。(各順位の括弧内は女子の基準)

インカレミドル

A-fin

優先度	基準
1	前年度インカレミドルにおいて、A-fin25(10)位以内である
2	前年度インカレミドルにおいて、B-fin3(3)位以内である
3	当年度インカレロングにおいて、選手権クラス25(10)位以内である
4	推薦を提出した者の中で、その年度のミドルセレの順位が最も高い

B-fin

優先度	基準
1	前年度インカレミドルにおいて、A-fin40(15)位以内である
2	前年度インカレミドルにおいて、B-fin15(10)位以内である
3	その他特筆すべき大会による諮問委員の判断 ただし、提出できる大会は、前年度インカレミドル以後の大会とする[1]

[1]まず初めに、提出された大会を参考に諮問委員それぞれが他の諮問委員と話し合うことなく各自で推薦順位を決定する。次に推薦順位を平均し、その値が最も小さかった者を選ぶ事とする。ただし、提出された大会については、その大会を提出しなかった者の記録も参考にする。

加盟員の登録年数について

文責：佐藤 大樹

皆さんに流したメーリスを引用します。

加盟員となる資格を持つのは、原則として規約第7条に定められた加盟校、準加盟校（以下、加盟校という）となる資格を有する、大学、短期大学、高等専門学校（4・5年生）（以下、大学等という）に正規生として学籍を有するもので、大学院学生、専攻科学生、あるいは聴講生、研究生などの非正規生を除く。

この中で大学院学生を正規生として加えてよいのではないかという議論になりました。文章が硬いのですが例を挙げると今までの規約だと、たとえば大学2年生でオリエンテーリングに興味をもって2年生からオリエンテーリングを始めたとしてもインカレへの参加資格は大学在学中しか与えられず、4年目は大学院学生となっていればインカレ等に参加できず、仮に一年間留年等した場合は大学生であるのでインカレに参加できるという風になっています。

そこで規約の改正には総会での議決が必要なため、各加盟校の皆様にご各大学で意見をまとめてきてもらいたいと考えています。

質問内容は以下の通りです。

- ・大学院学生も登録年数が4年以内であれば加盟登録を可能にすることに賛成か反対か。

これについて多くの大学から賛成との意見が集まりました。

賛成

北海道、津田塾、相模女子、宮城女子学院、お茶の水、千葉、京都、一橋、新潟、広島、十文字、椛山、筑波、実践、東北、岩手、京女、東工、立教

理由

インカレへのチャンスの回数は平等であるべき。

編入生がいて始められる時期が遅い。

加盟員の増加は楽しみが広がる。

院生だけでなく研究生・専攻科学生も加えるべきだ。

院生は参加でき留年等した場合は参加できるのは不公平。

年齢の差が体力の差になるとは考えにくい。

社会人でなければ構わない。
院生と大学生で分けるのは不合理。

反対

金沢、奈良女

理由

学連は学生のためのもの。インカレの雰囲気は学生がつくる
院生と現役だときまずい。

院生の出場には違和感。応援できる自信がない。

院に進まない人にとっては不利になる。

文系理系で院への進学率が異なる。

途中で始めた人に合わせる必要はない。

オリエンを始める機会は一年から与えられている。

院生が優勝しても学生チャンプといえるかどうか。

併設クラスはあり、競技自体は加盟していなくてもできる。

あえて一年目は登録しないなどといった悪用の恐れがある。

質問

- ・院生から始めた人、飛び級の人にも参加資格を与えるのかどうか。
- ・たとえば東北大で2年からオリエンを始め、東大で院生になって枠をとった場合どうなるか。

技術委員会報告

2014/10/11 文責：大西

1、学連合宿の開催

第1回 7月12-13（八ヶ岳。ユニバー合宿とコラボ）

第2回 8月23-24日（富士。インカレロング対策。）

2、WUOC2014

8月の12-16日にチェコのolomoucにてユニバーシアードの世界選手権が行われました。

日本からは男子6名、女子6名が参加しました。

結果についてはユニバーブログを参照してください。

次回は2年後にハンガリーのMISKOLCにて開催予定です。

ぜひ挑戦する資格を持っている人は今から目指してみてください。

3、海外遠征補助について

リテラメッド社がスポンサーとなって行われている。海外遠征補助事業を学連の技術委員会にて対象者の選考を行いました。

今年度は早稲田大学の尾崎選手と立教大学の宮川選手が選ばれました。

この遠征補助制度は過去からいろんな形で行われてきましたが、今年度は交通費や参加費など遠征にかかる費用すべての補助かつ対象者を前回の1名から2名に増やすということに決まりました。学生で海外遠征に行き、さらにステップアップを目指していきたいという人はぜひこの補助制度を活用してってください。

4、インカレロングのシード選手の推薦

今回行われるインカレロングのシード選手の候補者を選び、理事会のほうに推薦いたしました。

【男子】

杉村俊輔	東北大学 4
宮西優太郎	東北大学 3
尾崎弘和	早稲田大学 4
深田 恒	東京大学 3
福井悠太	東京大学 3
松下睦生	京都大学 4

【女子】

五味あずさ	金沢大学 3
稲毛日菜子	お茶の水女子大学 4
伊東瑠実子	東京大学 3
宮川 早穂	立教大学 3
守屋舞香	相山女学園大学 3

がシード選手として選出されました。